



「アバター」 評・稲葉寛夫

史上最高の興行収入の記録を更新し続けている、映画「アバター」(ジェームズ・キャメロン監督)は、それだけ人々の霊的な状況に大きな影響をもたらしているといえるので重大です。これまでの1位は、「タイタニック」(同監督)の1700億円、これは1年半をかけた金額です。その記録を1ヶ月半で更新し、既に2500億円を突破しています。

●長男とふたりで

この作品が、アメリカで封切られたばかりの頃、私の息子の真折史(17)は、「友だちのレベッカに感想を聞いたら、『何か、見終わった後変な気持ちになった、よく分からなけれど』と言ったよ」とのことでした。私は、ハリウッドの仲間から「最新の技術が駆使されていて、制作の勉強になるから、ぜひ見た方がいい」と勧められ見ることにしました。ニューエイジ系の映画ということ

は聞いていました。真折史はこのような作品はこれまで見ないようになっていますが、かなり興味する力がついた今の段階なら見せても大丈夫だろうと思い、分析・批評させるために連れていきました。

アバターは、約300億円と過去最大級の子算が投じられ、14年間の構想期間を経て制作されました。確かに映像技術的には優れています。しかし、気をつけるべきは、作品に流れるテーマ、ニューエイジ信仰の世界観が強く打ち出され、キリストに似て非なる女神礼拝、霊媒、大樹崇拜、集団主義らが、理想的世界観(ヒーロー観)として描かれ、心が

ゆつくりとマインド・コントロールされていくことです。

●物語

時代は22世紀。元海兵隊のジェイクは、傭兵として雇われ、衛星パンドラに向かいます。人間によく似た原始生活を営む巨人の種族、ナヴィを侵略する兵士として送り込まれたのです。ナヴィは人間より身体能力は高く、3メートルの身長、尻尾とさらめく青い皮膚をし、自然と調和した暮らしを送っています。パンドラの森には、稀少鉱物が埋蔵され、それを求める欲望深い人間たちに軍事力で侵略されようとしていたという舞台設定です。

登場人物は、ステレオタイプに単純化されて描かれます。多くの人間は欲望に満ち、非情で、暴力・交戦・支配的。一方、ナヴィは、自然と調和し、素朴で、霊的な事象を熟知し、偶像崇拜を中心に、部族の集団が幸せに生きているという、理想的な存在です。

人間側には、魂の事象、その真理を知っているクリスチャンは一人も登場しません。ナヴィたちが拜む女神や霊が、現代人が忘れ、知るべき存在である。現代人(欧米人)は、身近に触れられるキリストではなく、まだ知らない神秘宗教やニューエイジという、知られざる優れた宗教があるのだから、それに心を開けるべきだとこのメッセージが含まれているわけです。

人間同士の戦争で下半身不随となったジェイクに、侵略に成功したらという条件で障害の完治と高額

の報償が約束されます。科学の力で、人間とナヴィを組み合わせたアバター(原語は、インド神話や仏教で、「神や仏の化身」と化して、ナヴィのところに向かいます。出会ったナヴィの王女、ネイティリと、恋に落ちたジェイク。当初は、ほかのナヴィたちから警戒されますが、女神のお告げがあったということ、次第に仲間として受け入れられていきます。そこに欲望に満ちた近代兵器が、押し寄せてきます。

恋愛、友情、環境破壊、侵略戦争反対といった、人々が心を開きやすい要素がストーリーに組み込まれ、最新のコンピューター技術で演出されています。

●福音とは 似て非なるメッセージ

しかし、巧妙にカモフラージュされた反聖書的なメッセージがあることに気をつける必要があります。聖書的なことば(「ハレルヤ・マウンテン」や行動、他者を救うために自分の命を犠牲にして勇気をもって立ち上がることも含まれています。

しかし、そこには「キリストの十字架の死と復活による救い」等、聖書の福音はまったくなく、ニセ札のごとく似て非なる異教の神々、死者・靈魂復活の魔術、集団や自然崇拜等の必然性が訴えられていきます。ムービーガイド社によると、30ヶ所以上に、神を冒瀆することば、性的・不徳なセリフ等、不適切な表現も用いられ、英語版ではナヴィと人間とのセックスや獣姦のほめかし等が含まれていると指摘されています。

●聖書を軸に吟味する

真折史と行った満席の3D映画

館。上映後、拍手はわずかでした。アメリカでは、いい作品であれば、上映後に拍手が続きます。好きで大興奮している人はいるものの、多くの観衆は優れた映像技術に圧倒されつつも、拍手はなし。やはり後味はわるく、真折史の友だち同様、「何か変な気持ち」になっているように感じました。

真折史は、「確かにCGはいいけど、それだけ。内容は反聖書的なメッセージだし、台本も稚拙で練られてない。混乱している。ストーリー展開が平凡で結末も説めるし。レベッカが、何で変な気持ちになったか分かった」と分析していました。

私は、「ナヴィの姿が、は虫類人間のようで、人間の創り出すものはかわいくない。やっぱり神さまの創造は素晴らしいな」とも思いました。

メディアは、そこに隠されたテーマは何か、誰がヒーローなのかと、聖書を軸に吟味しながら見るのが大切です。世界の興行収入記録を塗り替え、多くの人々に影響を与えている作品ですが、最新技術の裏に隠されたワナの危険をしつかりとらえてもらえればと祈りました。

「アバター」

原題◆Avatar
制作国◆2009年 アメリカ

